

第3回定例会

町長より行政報告がなされました。
(内容は要約して掲載しています。)

・町長行政報告

町長行政報告 (要旨)

□農作物の生育状況について

今年、春は低温・天候不順により農作物の作付けや生育が遅れ、6月に入り天候の回復が遅れを取り戻し豊作を期待していましたが、その後の猛暑による農作物への影響が心配されます。

秋蒔き小麦の収穫作業は、穂発芽の発生もなく順調に行われたが、収穫量は異常高温の影響を受け「未熟粒」の発生が見られ、反当り「ホクシン」で420Kg、調整後の販売見込量は304Kg、新品種の「きたほなみ」で510Kg、調整後の見込み量は345Kgとなり、平年を大きく下回る残念な結果になりました。今後、農業改良普及センターと検証して参りたいと思っております。

カボチャは、今年、平年を

異常高温の影響で不作の恐れ!

上回る出来と報告を受けております。ビートは順調に生育しているものの、褐斑病の発生や害虫による被害も出ていることから管理を徹底し、十分な糖分を貯蓄できるように天候を願うところです。

牧草の一番草は、降雨により収穫作業が遅れ収量も平年を若干下回る結果となり、2番草についても全体的に平年を下回るとの報告を受けています。また、デントコーンは、順調に成育し平年を上回る収量になりそうとの報告です。

受託乳量については、猛暑の影響もありましたが、農家の努力もあり個々の乳量は増加しているものの、搾乳農家の減少分を補うまでには至っておらず、計画乳量を下回る生産が続いており、今後目標乳量の達成に期待します。

□漁業について

北海しまえび漁は、昨年より32.6%増の24.4tの計画通りの水揚げで終了しています。

ホタテ採苗は、ラーバ(浮

遊)幼生の出現が遅れ心配しましたが、健苗稚貝を確保することが出来ました。

外海ホタテ漁業は、9450tの生産計画で6月から本操業に入り、平均単価は約100円となっておりますが、オホーツク海全体でホタテの小型化、低歩留まりにより価格は低迷、円高により冷凍ホタテの輸出が悪化している状況です。

養殖ホタテ漁業は、計画の1850tを確保する見通しで、主に乾貝柱向けだが、今年は大サイズが少なく、在庫も少ないことからキロ単価は計画の170円に対し205円の仮精算となっております。

マス漁は今年、低調。サケ定置漁業は、9月4日に解禁になり、オホーツク中部地区の来遊予想は昨年並みとなっております。

□公共事業の執行状況について

8月末における地域活性化・きめ細かな臨時交付金事業の発注状況は、23件970

0万円で発注率は82%、今年度の主な工事、委託は44件で4億6500万で83%の発注率です。

□特別養護老人ホーム「愛の園」の増床について

5月から旧デイサービス棟の10床増床の工事を行い、10月1日の開設に向け準備を進めています。過日入園者10名が決定し、現在の待機者は23名となっております。

□遠軽地区広域組合消防職員配置について

6月定例会で一般質問があり、管理者や消防長に改善要望を出し、本年度13名体制となっていた佐呂間出張所は、10月1日から当面14名体制との方向性が示され、安堵しているところです。

□サロマ湖の行方不明者について

8月15日にサロマ湖でボートから転落した行方不明者については、8月23日漁業者が水面に浮いているのを発見、その後身元も確認されたところです。詳細は新聞報道のとおりです。